

子ども家庭総合研究事業

厚生労働科学研究費補助金研究事業の概要

研究事業（研究事業中の分野名）：子ども家庭総合研究事業

所管課：雇用均等・児童家庭局母子保健課

予算額（平成16年度）：738,251千円

①研究事業の目的

乳幼児の発達支援、乳幼児及び生涯を通じた女性の健康の保持増進等について効果的・効率的な研究の推進を図るとともに、少子化等最近の社会状況を見据えて、児童を取り巻く環境やこれらが児童に及ぼす影響等についての総合的・実証的な研究に取り組むことにより、母子保健をはじめとした次世代育成支援を総合的・計画的に推進するための児童家庭福祉の向上に資することを目的とする。

②課題採択・資金配分の全般的状況

15年度採択課題については別紙1に添付する。なお、課題の採択に当たっては、以下の観点から実施している。

<専門的・学術的観点からの留意事項>

- 研究の厚生科学分野における重要性（有用と考えられる研究であるか）
- 研究の厚生科学分野における発展性（厚生科学分野の振興・発展に役立つか）
- 研究の独創性・新規性（独創性・新規性を有しているか）
- 研究目標の実現性（実現可能な研究であるか）
- 研究者の資質、施設の能力（研究業績や研究者の構成、施設の設備等の観点から、遂行可能な研究であるか）

<行政的観点からの留意事項>

- 行政課題との関連性（厚生行政の課題と関連性がある研究であるか）
- 行政的重要性（厚生行政にとって重要な研究であるか）
- 行政的緊急性（現時点で実施する必要性・緊急性を有する研究であるか）

<総合的に勘案すべき事項>

- 研究内容の倫理性

③研究成果及びその他の効果

我が国は、世界で最も少子化の進んだ国の一つであり、健康で活力ある社会の実現を目指すためには、心身ともに健やかな「子どもの育ち」を保障するための社会基盤を強化しなければならない。そのためには、子どもの多様な心身状態に応じた適切な発達支援や家庭の子育て支援が不可欠であり、地域において、いつでも安心して保健医療サービスが受けられるようにするための小児救急医療体制や、妊娠、出産から子どもの健全な育ちにかかわる保健医療の充実を図る必要がある。また、児童虐待やドメスティック・バイオレンス（DV）などの子どもの発育・発達や家庭機能に深刻な影響をもたらす社会的課題への対応とともに、家庭・養育機能の形成・回復のための対策の推進が求められる。多様な社会的ニーズや新たな課題に迅速に対応するため、児童福祉、小児医療、母子保健などが連携して子どもの健やかな育ちを継続的に支えるための体制整

備を図ることが急務となっており、本研究事業においては、このような社会基盤の強化に資する以下のような研究成果が得られている。

〈多様な社会的ニーズに対応し、かつ安全で安心できる母子保健医療システムの実現〉

- 妊娠・出産から思春期の健康を支える教育プロセスの構築
- 周産期医療体制に関する実態の把握
- 生殖補助医療の治療指針の開発、生殖補助医療システムの構築に関する検討
- 社会的ニーズに応える小児科・産婦人科医師の確保・育成方策の推進基盤となる実態把握
- 「健やか親子21」における市町村の取組に関する双方向性のデータベースの構築
- 次世代育成行動計画における母子保健施策のあり方に関する検討

〈子ども（胎児を含む）の多様な心身状態に応じた適切な発達支援の実現〉

- 思春期やせ症の予防、早期発見のための「成長発育曲線等を活用した指標」の開発
- 聴覚障害の早期発見、早期ケアのための「新生児聴覚スクリーニングに関するガイドラン」の作成
- 引きこもり（不登校長期化）の予防につながる子どもの睡眠障害を中心とした生体リズムの混乱による疲労感に関する検討
- 神経管閉鎖障害発症リスク低減をねらいとした妊婦の葉酸の栄養状態についての解明
- 新生児の異常呼吸運動の早期発見や理学療法の効果判定のための新しいモニター装置の開発
- 小児心身症に対する基本的知識及び臨床態度を養うための小児科医向け「子どもの心の健康問題ハンドブック」の作成

〈子どもの発育・発達や家庭の機能に深刻な影響をもたらす課題への的確な対応〉

- ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者における精神への健康影響の実態の解明及び心身回復のための援助方法の開発
- 児童虐待の発生予防を視野に入れた養育支援を必要とする家庭の早期発見・早期対応のためのアセスメント指標の開発や効果的予防方法の開発
- 子どもの事故と発達の関連を明らかにし、健診での事故防止プログラムを開発するとともに、保護者用の事故防止情報や事故への気配りの自己点検用ウェブサイト開発実行

〈家庭（養育）機能の形成、機能回復のための対策の推進〉

- 子どもの健全な発達と親の育児不安の軽減をねらいとした出生前小児保健指導事業（プレネイタルビジット）促進のための効果評価
- 乳児院・児童養護施設等における保護者の援助のためのガイドラインの作成
- 被虐待児童の保護者への援助・指導を行うための援助プログラムの開発
- 再婚家庭の実態調査を行い、今後予定されている母子自立支援マニュアル作

成のための基礎資料の提供を行い、母子家庭の母親に対する就労支援の意義について社会的理解を高めた

〈新たな社会的ニーズに対応し、かつ子どもの発育・発達を確保できる児童福祉サービスの実現〉

- 低年齢児保育や長時間保育、家庭の養育状況による子ども発達に及ぼす影響についての解明
- 保育所と幼稚園の合同保育に関する指針の作成
- 児童福祉専門職の児童虐待対応に関する専門性向上のための教育訓練教材の開発

④行政施策との関連性・事業の目的に対する達成度

本研究事業については、子どもの健康確保と母子医療体制等の充実、多様な子育て支援サービスの推進、児童虐待への対応などの要保護児童対策などの充実等、母子医療保健及び児童家庭福祉に係る行政施策の推進に資する基盤的研究を実施しており、新たな社会的課題やニーズに対して、具体的かつ施策への実応用が可能な研究成果が得られているところであり、総じて研究事業の達成度は高いものと考えられる。

⑤課題と今後の方向性

本研究事業においては、国民的関心及びニーズの非常に高い「周産期・小児医療」や「児童虐待」などの新しい社会的課題への取り組みを行っており、母子保健医療や児童家庭福祉における「健やか親子21」及び「新エンゼルプラン」などの国の重点政策課題に応える研究を推進している。次世代育成支援を総合的に推進するためには、ライフステージの各段階に応じて必要な施策を有機的に組み合わせ、「子どもの育ち」を保障する家庭機能の形成・回復に向けた施策の推進、小児慢性疾患や乳幼児の障害への適切な支援、児童家庭福祉サービスの質の向上に関する研究を重点的に行う必要がある。そのため、平成16年度は、以下の観点から、新たな課題やニーズに対し、実証的かつ成果の明確な母子保健・児童家庭福祉の施策に即応する研究を推進する。

- 〈多様な社会的ニーズに対応し、かつ安全で安心できる母子保健医療システムの実現〉の観点から、小児科・産科医療の今後の体制の整備に関する検討と政策提言を行う。
- 〈子どもの多様な心身状態に応じた適切な発達支援の実現〉の観点から、軽度発達障害児の早期発見と対応システムの開発、胎児期の低栄養状態と児の将来的な生活習慣病発症のリスクの解明とリスク低減のための方策の検討等を進める。
- 〈子どもの発育・発達や家庭の機能に深刻な影響をもたらす課題への対応〉の観点から、虐待を受けた子どもの心身の健康影響を評価する手法や相談・支援システムの開発、ドメスティック・バイオレンス被害者の自立支援のためのガイドラインの作成などを進める。
- 〈家庭・養育機能の形成、機能回復の対策の推進〉の観点から、産後うつの子予防や母子の愛着形成支援のための周産期母子精神保健ケア方策の検討、虐

待の起こった家庭の家族再統合に関する支援プログラムの開発等を進める。
▶ 〈新たな社会的ニーズに対応し、子どもの発育・発達を確保できる児童福祉サービスの実現〉の観点から、虐待を受けた子どもへの家庭的養護を行うシステム開発や虐待による重症症例に対する総合的治療システムの開発等を進める。

⑥研究事業の総合評価

本研究事業については、子どもの健康確保と安全な母子医療体制等の充実、多様な子育て支援サービスの推進、児童虐待への対応を含む要保護児童対策等の充実等、母子保健及び児童家庭福祉に関する行政施策の推進に資する基盤的研究を実施している。新たな課題や社会のニーズに対し、施策の実施基盤となる基礎資料を提供し、行政施策へ応用される研究成果が得られているところであり、総じて研究事業は高く評価されるものと考えられる。

平成15年度厚生労働科学研究費補助金採択課題一覧

| NO. | 課題番号 | 開始 | 終了 | 主任研究者 | フリガナ | 所属施設 | 職名 | 研究課題名 |
|-----|-------------|----|----|--------|------------|-------------------------------|-----------|--|
| 1 | H13-子ども-002 | 13 | 15 | 山縣 然太郎 | ヤマカタ センタロウ | 山梨医科大学医学部・医学科・保健学II講座 | 教授 | 地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究 |
| 2 | H13-子ども-003 | 13 | 15 | 牛島 廣治 | ウシジマヒロシ | 東京大学大学院医学系研究科 | 教授 | 多民族文化社会における母子の健康に関する研究 |
| 3 | H13-子ども-005 | 13 | 15 | 田村 正徳 | タムラ マサヒ | 埼玉医科大学総合医療センター小児科 | 教授 | 後障害防止に向けた新生児医療のあり方に関する研究 |
| 4 | H13-子ども-008 | 13 | 15 | 三科 潤 | ミナ ジュン | 東京女子医科大学総合母子医療センター | 助教授 | 全出生児を対象とした新生児聴覚スクリーニングの有効な方法及びフォローアップ、家族支援に関する研究 |
| 5 | H13-子ども-010 | 13 | 15 | 豊田 長康 | トヨタ ナガヤス | 三重大学医学部産科婦人科学講座 | 教授 | 妊娠糖尿病のスクリーニングに関する多施設共同研究 |
| 6 | H13-子ども-012 | 13 | 15 | 吉池 信男 | ヨシイケ ノブオ | 独立行政法人 国立健康・栄養研究所(健康・栄養調査研究部) | 研究・企画評価主幹 | 妊産婦、授乳婦の栄養素摂取及び栄養状態に関する基準データの策定 |
| 7 | H13-子ども-014 | 13 | 15 | 小林 陽之助 | コバヤシ ヨウノスケ | 関西医科大学医学部小児科学講座 | 教授 | 小児心身症対策の推進に関する研究 |
| 8 | H13-子ども-015 | 13 | 15 | 渡辺 久子 | ワタナベ ヒサコ | 慶應義塾大学医学部小児科学教室 | 講師 | 思春期やせ症の実態把握及び対策に関する研究 |
| 9 | H13-子ども-016 | 13 | 15 | 衛藤 隆 | イトウ タカシ | 東京大学大学院教育学研究科 | 教授 | 思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究 |
| 10 | H13-子ども-018 | 13 | 15 | 三池 輝久 | ミイケ テルヒサ | 熊本大学医学部小児発達学講座 | 教授 | 思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究 |
| 11 | H13-子ども-023 | 13 | 15 | 中村 肇 | ナカムラ ハジメ | 神戸大学大学院医学研究科 | 教授 | 周産期医療水準の評価と向上のための環境整備に関する研究 |

| NO. | 課題番号 | 開始 | 終了 | 主任研究者 | フリガナ | 所属施設 | 職名 | 研究課題名 |
|-----|-------------|----|----|--------|-------------|-----------------------------|-----------|---|
| 12 | H13-子ども-025 | 13 | 15 | 田中 哲郎 | タナカ テツロウ | 国立保健医療科学院 生涯保健部 | 生涯保健部長 | 子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究 |
| 13 | H13-子ども-027 | 13 | 15 | 山城 雄一郎 | ヤマシロ ユウイチロウ | 順天堂大学医学部小児科 | 教授 | 子どものためのインフォームドコンセントを推進するプレパレーションツールの開発 |
| 14 | H13-子ども-029 | 13 | 15 | 多田 裕 | タダ ヒロシ | 東邦大学医学部新生児学教室 | 教授 | 育児不安軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究 |
| 15 | H13-子ども-030 | 13 | 15 | 庄司 順一 | シヨウジ ジュンイチ | 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所 | 福祉臨床担当部長 | 被虐待児童の保護者への指導法の開発に関する研究 |
| 16 | H13-子ども-031 | 13 | 15 | 板橋 家頭夫 | イタバシ カスオ | 昭和大学横浜市北部病院こどもセンター | こどもセンター教授 | 育児不安の軽減に向けた低出生体重児の栄養のあり方に関する研究 |
| 17 | H13-子ども-032 | 13 | 15 | 渡部 信一 | ワタベ シンイチ | 東北大学大学院教育情報学研究部 | 教授 | インターネット及び人的ネットワークを活用した育児不安軽減に関する研究 |
| 18 | H13-子ども-033 | 13 | 15 | 中村 敬 | ナカムラ ケイ | 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所 | 情報担当部長 | 地域における子育て支援ネットワークの構築に関する研究 |
| 19 | H13-子ども-035 | 13 | 15 | 芝野 松次郎 | シバノ マツジロウ | 関西学院大学社会学部社会福祉学科 | 教授 | 児童福祉専門職の児童虐待対応に関する専門性向上のためのマルチメディア教育訓練教材および電子書式の開発的研究 |
| 20 | H13-子ども-036 | 13 | 15 | 小西 聖子 | コニシ シンコ | 武蔵野女子大学人間関係学部 | 教授 | DV被害者における精神保健の実態と回復のための援助の研究 |
| 21 | H13-子ども-037 | 13 | 15 | 庄司 洋子 | シヨウジ ヨウコ | 立教大学社会学部 | 教授 | ひとり親家族の自立支援施策のあり方に関する実証的研究 |
| 22 | H13-子ども-038 | 13 | 15 | 野田 正人 | ノダ マサト | 立命館大学産業社会学 | 教授 | 非行問題に対応する児童福祉サービスのあり方に関する調査研究 |
| 23 | H13-子ども-041 | 13 | 15 | 網野 武博 | アミノ タケヒロ | 上智大学文学部社会福祉学科 | 教授 | 保育が子どもの発達に及ぼす影響に関する研究 |
| 24 | H14-子ども-002 | 14 | 16 | 坂上 正道 | サカガミ マサミチ | 早稲田医療学園人間総合科学大学 | 学長 | 乳幼児突然死症候群の診断のためのガイドライン作成およびその予防と発症率軽減に関する研究 |

| NO. | 課題番号 | 開始 | 終了 | 主任研究者 | フリガナ | 所属施設 | 職名 | 研究課題名 |
|-----|-------------|----|----|-------|-----------|----------------------------------|-------------|---|
| 25 | H14-子ども-003 | 14 | 16 | 小林 正子 | コハヤシ マサコ | 国立保健医療科学院 | 行動科学室長 | 乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究 |
| 26 | H14-子ども-004 | 14 | 15 | 高村 寿子 | タカムラ ヒサコ | 自治医科大学看護学部 | 教授 | ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究 |
| 27 | H14-子ども-005 | 14 | 15 | 吉村 泰典 | ヨシムラ ヤスリ | 慶應義塾大学医学部産婦人科学教室 | 教授 | 配偶子・胚提供を含む総合的生殖補助技術のシステム構築に関する研究 |
| 28 | H14-子ども-006 | 14 | 16 | 中村 好一 | ナカムラ ヨシカズ | 自治医科大学保健科学講座公衆衛生学部門 | 教授 | 快適な妊娠・出産を支援する基盤整備に関する研究 |
| 29 | H14-子ども-007 | 14 | 16 | 鈴木 薫 | スズモリ カオル | 名古屋市立大学医学部産科婦人科 | 教授 | 日本人女性の葉酸代謝関連酵素遺伝子多型と先天異常(神経管欠損症およびダウン症候群等)の発生予防効果に関する基礎的研究 |
| 30 | H14-子ども-008 | 14 | 16 | 宇野 彰 | ウノ アキラ | 国立精神・神経センター精神保健研究所成人精神保健部成人精神保健室 | 知的障害部治療研究室長 | 学習障害児の早期発見検査法の開発および治療法と治療効果の研究 |
| 31 | H14-子ども-010 | 14 | 16 | 日暮 眞 | ヒグラシ マコト | 東京家政大学児童学科小児学第二研究室 | 教授 | 子育て時における両親の相談ニーズ把握及び保健医療福祉スタッフ支援モデル研究事業 |
| 32 | H14-子ども-011 | 14 | 16 | 鴨下 重彦 | カモシタ シゲヒコ | 社会福祉法人賛育会賛育会病院 | 院長 | 小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究 |
| 33 | H14-子ども-013 | 14 | 16 | 稲葉 裕 | イナハ ユカ | 順天堂大学医学部衛生学教室 | 教授 | 生涯を通じた健康の管理・保持増進のための健康教育・相談支援等の充実に関する研究 |
| 34 | H14-子ども-014 | 14 | 16 | 天野 恵子 | アマノ ケイコ | 千葉県衛生研究所 | 所長 | 日本における女性医療の課題に関する医療社会学的研究ならびに性差を加味した健康度及び生活習慣の測定手法の評価に関する研究 |
| 35 | H14-子ども-016 | 14 | 16 | 佐藤 郁夫 | サトウ イクオ | 医療法人社団平成記念会国際医療福祉病院 | 病院長 | 望まない妊娠、人工妊娠中絶を防止するための効果的な避妊教育プログラムの開発に関する研究 |
| 36 | H14-子ども-017 | 14 | 16 | 服部 祥子 | ハツリ サチコ | 大阪人間科学大学人間科学部人間環境学科 | 教授 | 児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究 |
| 37 | H14-子ども-018 | 14 | 16 | 本間 博彰 | ホンマ ヒロアキ | 宮城県子ども総合センター | 所長 | 児童虐待に対する治療的介入と児童相談所のあり方に関する研究 |

| NO. | 課題番号 | 開始 | 終了 | 主任研究者 | フリガナ | 所属施設 | 職名 | 研究課題名 |
|-----|-------------|----|----|--------|--------------|----------------------------------|----------------|---|
| 38 | H14-子ども-020 | 14 | 16 | 金 吉晴 | キン ヨシハル | 国立精神・神経センター精神保健研究所成人精神保健部成人精神保健室 | 成人精神保健部長 | 母親とともに家庭内暴力被害を受けた子どもへの心理的支援のための調査 |
| 39 | H14-子ども-021 | 14 | 15 | 山崎 美貴子 | ヤマザキ ミキコ | 明治学院大学社会学部 | 保健福祉学部長・教授 | ひとり親(母子)家庭・再婚家庭の実態とその支援方法に関する研究 |
| 40 | H14-子ども-023 | 14 | 15 | 菅原 ますみ | スガワラ マスミ | お茶の水女子大学文教育学部 | 助教授 | 非行・ひきこもり等の児童問題対策に関する研究 |
| 41 | H14-子ども-025 | 14 | 15 | 水野 清子 | ミズノ キヨコ | 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所 | 客員研究員 | 保育所の給食システムに関する研究 |
| 42 | H14-子ども-028 | 14 | 15 | 福島 富士子 | フクシマ フジコ | 国立保健医療科学院公衆衛生看護学部 | 主任研究官 | 市町村母子保健計画書の数量的分析による計画書改訂の評価 |
| 43 | H14-子ども-029 | 14 | 16 | 山口 規容子 | ヤマグチ キヨコ | 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院 | 名誉院長 | 地域における子育て支援システムの構築と普及に関する研究 |
| 44 | H14-子ども-030 | 14 | 16 | 山本 茂 | ヤマモト シゲル | 徳島大学医学部栄養学科 | 教授 | 子どもの発達段階に応じた効果的な栄養・食教育プログラムの開発・評価に関する総合的研究 |
| 45 | H15-子ども-001 | 15 | 17 | 新藤 幸恵 | シントウ サチエ | 青森県立保健大学 | 学長・健康科学部看護学科教授 | 10代の女性の人工妊娠中絶減少にむけての支援モデルの構築 |
| 46 | H15-子ども-002 | 15 | 17 | 藤内 修二 | トウナイ シュウジ | 大分県日田玖珠保健所 | 所長 | 市町村母子保健計画の見直しと推進に関する研究 |
| 47 | H15-子ども-003 | 15 | 16 | 渡邊 修一郎 | ワタナベ シュウイチロウ | 昭和大学医学部小児科学研究室 | 助教授 | 健やか親子21推進のための学校における思春期の心の問題に対する相談システムモデルの構築 |
| 48 | H15-子ども-004 | 15 | 17 | 岡村 州博 | オカムラ クニヒロ | 東北大学大学院医学系研究科 | 教授 | 地域における分娩施設の適正化に関する研究 |
| 49 | H15-子ども-005 | 15 | 17 | 三砂 ちづる | ミサゴ チズル | 国立保健医療科学院疫学部 | 助教授 | 妊娠・出産と母子の長期的経過についての縦断研究 |
| 50 | H15-子ども-006 | 15 | 17 | 岡井 崇 | オカイ タカシ | 昭和大学医学部産婦人科学教室 | 主任教授 | 多施設共同ランダム化比較試験による早産予防の為の妊婦管理ガイドラインの作成 |

| NO. | 課題番号 | 開始 | 終了 | 主任研究者 | フリガナ | 所属施設 | 職名 | 研究課題名 |
|-----|-------------|----|----|---------|------------|--------------------------|-------|--|
| 51 | H15-子ども-007 | 15 | 17 | 本城 秀次 | ホンジョウ シュウジ | 名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター | センター長 | 母子関係障害についての精神医学的・発達心理学的研究-母子関係障害解決・予防のための基礎研究- |
| 52 | H15-子ども-008 | 15 | 16 | 松田 宣子 | マツダ ノブコ | 神戸大学医学部 | 助教授 | 保健師による母子保健活動における児童虐待リスクアセスメントツールの開発 |
| 53 | H15-子ども-009 | 15 | 17 | 杉山 登志郎 | スギヤマ トシロウ | あいち小児保健医療総合センター | センター長 | 被虐待児への医学的総合治療システムのあり方に関する研究 |
| 54 | H15-子ども-010 | 15 | 16 | 高橋 重宏 | タカハシ シゲヒロ | 日本子ども家庭総合研究所子ども家庭福祉研究部 | 部長 | 児童虐待防止に効果的な地域セーフティーネットのあり方に関する研究 |
| 55 | H15-子ども-011 | 15 | 16 | 加藤 曜子 | カトウ ヨウコ | 流通科学大学サービス産業学部医療福祉サービス学科 | 教授 | 家庭支援の一環としての虐待親へのペアレンティングプログラム作成 |
| 56 | H15-子ども-012 | 15 | 16 | 鈴木 力 | スズキ ツトム | 聖徳大学短期大学部保育科 | 専任講師 | 被虐待児の心身の機能回復に向けた家族支援のあり方に関する研究 |
| 57 | H15-子ども-013 | 15 | 16 | 伊志嶺 美津子 | イシミネ ミツコ | 関東学院大学人間環境学部 | 教授 | 子ども家庭支援プログラムの開発に関する研究 |
| 58 | H15-子ども-014 | 15 | 17 | 西澤 哲 | ニシザワ サトル | 大阪大学大学院人間科学研究科 | 助教授 | 児童福祉機関における思春期児童等に対する心理的アセスメントの導入に関する研究 |
| 59 | H15-子ども-015 | 15 | 15 | 畠中 宗一 | ハナナカ ムネカズ | 大阪市立大学生活科学研究科 | 教授 | 子どもの発達と家族への支援方策に関する研究 |
| 60 | H15-子ども-016 | 15 | 15 | 金子 恵美 | カネコ メグミ | 日本社会事業大学 | 助教授 | 保育所と幼稚園の合同保育に関する調査研究-合同保育に関する指針の検討- |
| 61 | H15-子ども-017 | 15 | 16 | 寺川 直樹 | テラカワ ナオキ | 鳥取大学医学部産婦人科学教室 | 教授 | 女性の各ライフステージに応じた健康支援システムの確立に向けた総合的研究 |
| 62 | H15-子ども-018 | 15 | 17 | 北村 俊則 | キタムラ トシノリ | 熊本大学医学部神経精神医学講座 | 教授 | 周産期母子精神保健ケアの方策と効果判定に関する研究 |